

資料編

1 生駒市の環境の現況

- | | |
|-----------|---------------|
| (1) 位置・地勢 | (7) ダイオキシン類 |
| (2) 人口 | (8) 事業所 |
| (3) 土地利用 | (9) 農業 |
| (4) 大気 | (10) ごみ処理量 |
| (5) 水質 | (11) 電力 |
| (6) 騒音・振動 | (12) 自動車保有台数 |
| | (13) 公共交通利用者数 |

2 策定までの足跡（年表）

3 委員名簿

4 策定の様子

5 策定委員からの一言メッセージ

6 用語集

1 生駒市の環境の現況

1) 位置・地勢

面積：53.18km²

人口総数：117,426人（平成19年10月1日現在）

世帯数：44,059戸（平成19年10月1日現在）



周囲約60キロメートル、面積53.18平方キロメートルを有するわたしたちのまち生駒市は、奈良県の北西端に位置し、大阪府と京都府に接しています。西に標高642メートルの生駒山を主峰とする生駒山地が、東に矢田丘陵と西の京丘陵があり、そこに広がる本市は、東西約8.0キロメートル、南北約15.0キロメートルと南北に細長い形をしています。

自然環境の良さや交通の利便性から伸び続けていた人口は、平成2年に、10万人を超え、県下3番目の10万都市となりました。

生駒の玄関、近鉄生駒駅は、大阪難波と奈良を結ぶ近鉄奈良線、生駒から大阪市営地下鉄の大阪南港コスモスクエアまで直通運転される近鉄けいはんな線と王寺まで結んでいる近鉄生駒線のターミナル駅です。また、日本で最初につくられたケーブルカーが、生駒駅前の鳥居前駅から聖天さんと呼ばれる宝山寺や生駒山頂とを結んでいます。

主な道路は、東西に、阪奈道路、国道163号線、国道308号線、市道奈良阪南田原線が、南北に、国道168号線、県道枚方大和郡山線があり、平成9年の第二阪奈有料道路の完成により、大阪、奈良の中心部へのアクセスが一層便利になりました。

生駒で有名なものといえば「高山茶釜」があります。茶釜は、室町時代から伝えられる技法を用い、茶釜師の巧みな手さばきと長年の勘にたよるもので、伝統的工芸品に指定されています。ほかにも、茶道具、編み針などの竹製品の製造が盛んです。

この茶釜の里の近くに、関西文化学術研究都市・高山サイエンスタウンがあります。この地域は学研高山地区（第1工区）として既に国立大学法人奈良先端科学技術大学院大学を中心とした文化学術研究・交流施設が整備され、新たなまちづくりが始まっています。

まちのシンボル生駒山には、山頂に京阪神一円に電波を発しているテレビアンテナ群や、遊園地があり、一年を通じてたくさんの人でにぎわいます。また、大阪平野、大和盆地を眼下に見下ろす山頂からの眺望が見事で、夜景も特に美しいことで知られています。

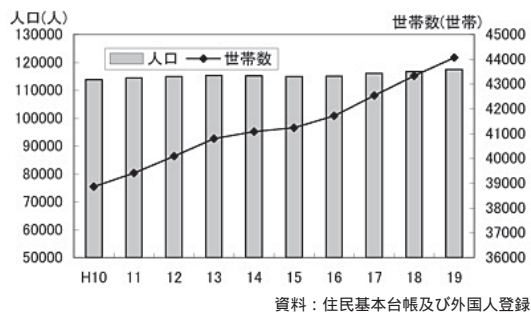
生駒山の南には、その昔芭蕉が歩いたことで知られる暗がり峠越えの道（暗峠）があります。今も石畳が残り、当時をしのぶことができます。また、市の北部にはバーベキュー、ボート遊びなどが楽しめるくろんど池があり、観光シーズンには家族連れやハイキング客などでにぎわいをみせます。

このように本市は、豊かな自然や歴史、伝統産業といった魅力と最先端の顔を備えた利便性の高い住宅都市として、「みんなの夢をかなえる挑戦と創造のまち・生駒」をめざして、前進を続けています。

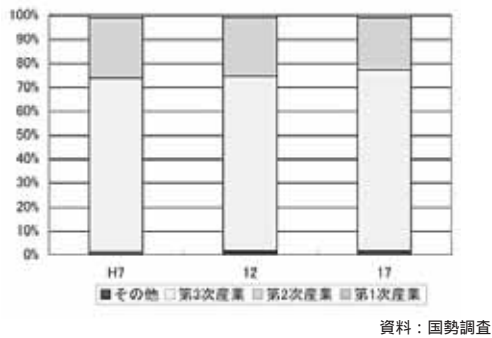
2) 人口

生駒市の人口は、ほぼ横ばいで推移している一方、世帯数は一貫して増加し続けています。人口規模は、奈良市、橿原市に次ぎ、奈良県下で第3位となっています。就業人口では、第3次産業が最も多く、増加傾向にあります。

図表1 人口及び世帯数



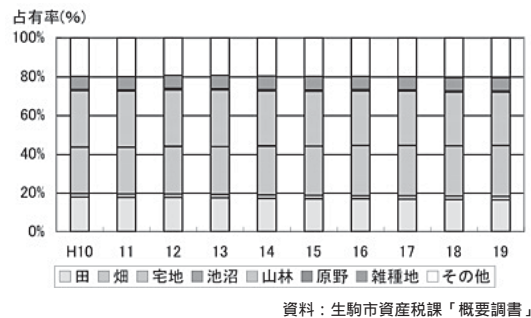
図表2 産業分類別就業者割合



3) 土地利用

宅地面積が増加傾向となっています。

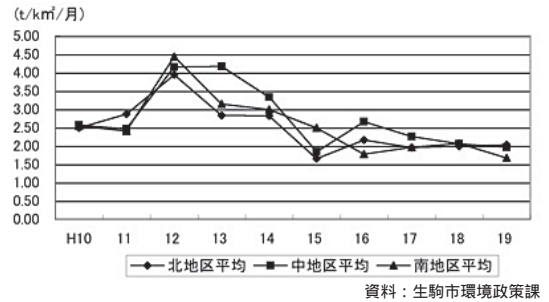
図表3 土地利用種類別面積



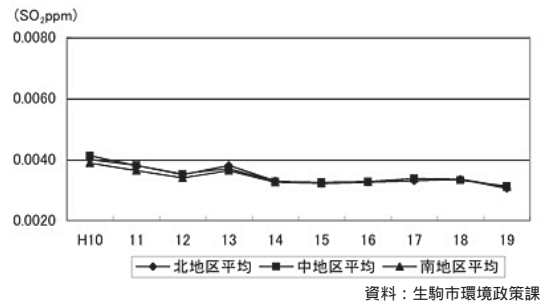
4) 大気

降下ばいじん、二酸化硫黄、二酸化窒素の3項目とも、若干の増減はあるものの、良好な環境が維持されていると考えられます。

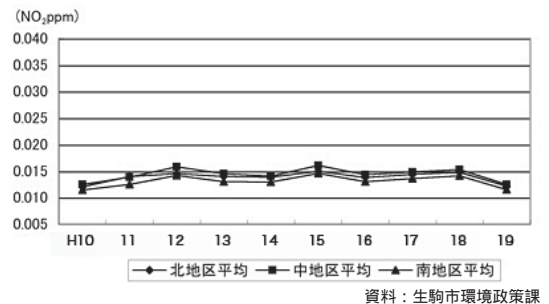
図表4 降下ばいじん(年平均値)



図表5 二酸化硫黄(年平均値)



図表6 二酸化窒素(年平均値)

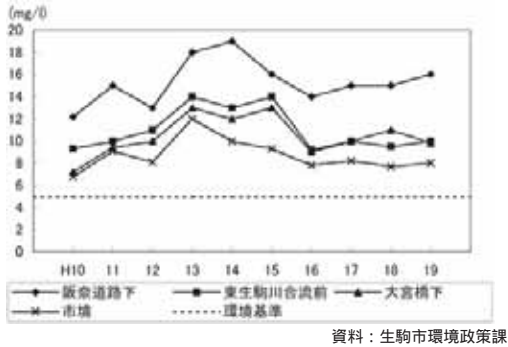


1 生駒市の環境の現況

5) 水質

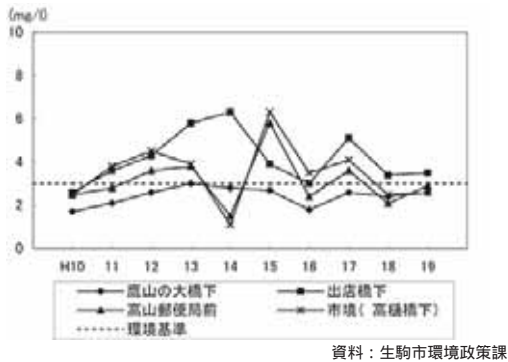
生駒市では、竜田川と富雄川で環境基準が設定されていますが、特に竜田川本流のBOD値については、年平均値として、過去10年間一度も環境基準を達成していません。

図表7 竜田川本流 BOD (年平均値)



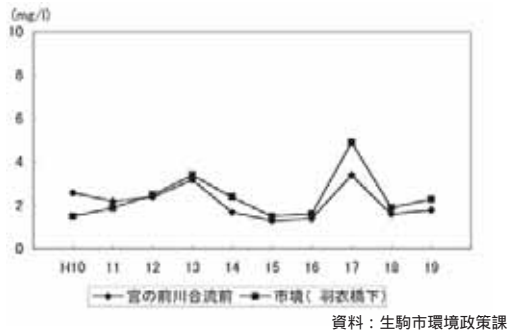
資料：生駒市環境政策課

図表8 富雄川本流 BOD (年平均値)



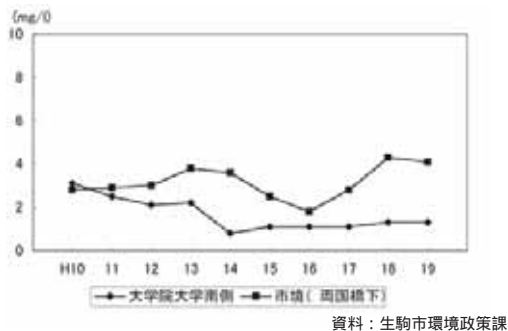
資料：生駒市環境政策課

図表9 天野川本流 BOD (年平均値)



資料：生駒市環境政策課

図表10 山田川本流 BOD (年平均値)



資料：生駒市環境政策課

6) 騒音・振動

平成19年度の環境騒音、自動車騒音、道路交通振動については、全地点で基準を達成しており、良好な環境が維持されているといえます。

図表11 環境騒音

No.	調査地点	(デシベル)			
		H19		環境基準	
		昼間	夜間	昼間	夜間
1	鹿ノ台西1丁目	49	34	55	45
2	ひかりが丘3丁目	47	40	55	45
3	高山町	48	37	60	50
4	真弓3丁目	48	33	55	45
5	あすか野北1丁目	47	35	55	45
6	生駒台北	45	30	55	45
7	樋口町	49	44	55	45
8	光陽台	48	34	55	45
9	辻町	50	37	55	45
10	元町1丁目	45	40	60	50
11	山崎町	44	37	55	45
12	東生駒3丁目	43	35	55	45
13	緑ヶ丘	41	30	55	45
14	さつき台1丁目	50	36	55	45
15	壺分町	44	35	55	45
16	萩原町	49	43	55	45
17	萩の台3丁目	50	40	55	45

資料：生駒市環境政策課

図表12 自動車騒音

No.	調査地点	(デシベル)			
		H19		要請限度	
		昼間	夜間	昼間	夜間
1	市道鹿ノ台中央大通り線	57	51	70	65
2	市道高山上北田原線	69	61	75	70
3	国道163号	71	68	75	70
4	市道押振真弓線	65	59	70	65
5	市道真弓芝線	65	57	70	65
6	市道奈良阪南田原線	69	62	70	65
7	市道奈良阪南田原線	67	61	70	65
8	市道西村線	67	60	70	65
9	市道樋口上線	67	59	70	65
10	県道奈良生駒線	71	67	75	70
11	国道168号	67	61	75	70
12	県道生駒停車場宛木線	66	61	75	70
13	市道大谷線	69	64	70	65
14	県道生駒停車場宝山寺線	62	55	75	70
15	国道168号	66	61	75	70
16	県道大阪枚岡奈良線	69	65	75	70
17	市道菜畑壺分線	69	65	70	65
18	市道壺分乙田線	69	63	70	65

資料：生駒市環境政策課

図表13 道路交通振動

No.	調査地点	(デシベル)			
		H19		要請限度	
		昼間	夜間	昼間	夜間
3	国道163号	47	45	65	60
10	県道奈良生駒線	42	36	65	60
11	国道168号	44	37	70	65
12	県道生駒停車場宛木線	36	30	70	65
15	国道168号	31	26	65	60
16	県道大阪枚岡奈良線	38	32	65	60
17	市道菜畑壺分線	38	32	65	60

資料：生駒市環境政策課

7) ダイオキシン類

大気中、河川水質・底質ともに、環境基準を満たしています。

図表 14 大気中のダイオキシン類濃度

測定地点	測定日	H19 (pg-TEQ/m ³)		環境基準
		7月30 ~31日	1月21 ~22日	
北地区 消防北分署		0.047	0.028	0.6
中地区 生駒市消防本部		0.031	0.014	
南地区 南コミュニティセンター		0.038	0.024	
平均値		0.038	0.022	

資料：奈良県環境政策課、生駒市環境政策課

図表 15 河川水質・底質のダイオキシン類濃度

測定地点	測定日	H19		環境基準
		水質 (pg-TEQ/l)	底質 (pg-TEQ/g-dry)	
水質	富雄川市境	0.87	1	
	天野川市境	0.12		
	山田川市境	0.28		
	竜田川市境	0.21		
底質	竜田川市境	0.49	150	
	富雄川市境	6.1		

資料：生駒市環境政策課

8) 事業所

業種別では、卸売・小売業の事業所数及び従業者数が最も多く、規模別では、1～4人の従業者数の事業所が最も多くなっています。

図表 16 事業所数及び従業者数

	事業所数		従業者数	
	実数	構成比	実数	構成比
農林漁業	3	0.1	37	0.1
鉱業	—	—	—	—
建設業	170	6.6	1104	4.2
製造業	192	7.4	2884	11.1
電気・ガス・熱供給・水道業	8	0.3	101	0.4
情報通信業	12	0.5	280	1.1
運輸業	24	0.9	841	3.2
卸売・小売業	701	27.0	6987	26.8
金融・保険業	26	1.0	393	1.5
不動産業	179	6.9	596	2.3
飲食店・宿泊業	320	12.4	2219	8.5
医療・福祉	269	10.4	4243	16.3
教育・学習支援業	177	6.8	2655	10.2
複合サービス事業	16	0.6	294	1.1
サービス業(他に分類されないもの)	478	18.4	2638	10.1
公務(他に分類されないもの)	18	0.7	815	3.1
合計	2593	100.0	26087	100.0

資料：総務省統計局「事業所・企業統計調査報告」

図表 17 規模別事業所数及び従業者数

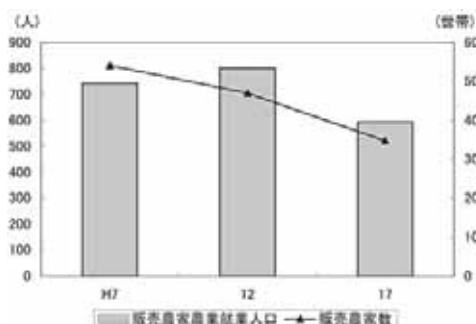
	(平成18年10月1日現在)	
	事業所数	従業者数
1～4人	1361	3069
5～9人	577	3798
10～19人	304	4098
20～29人	106	2534
30～49人	61	2318
50～99人	43	3022
100人以上	20	4917
派遣・下請従業者のみ	1	—
合計	2473	23756

資料：総務省統計局「事業所・企業統計調査報告」

9) 農業

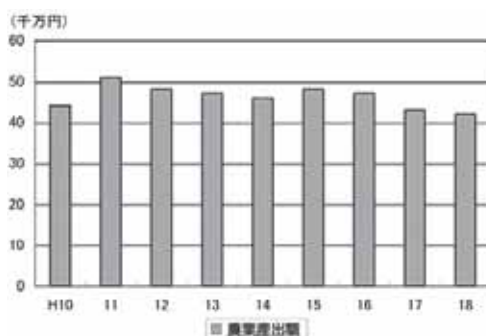
販売農家農業就業人口、販売農家数及び農業産出額は減少傾向にあり、一方で遊休農地が増加しつつあります。

図表 18 販売農家農業就業人口及び販売農家数



資料：農林水産省「農林業センサス」

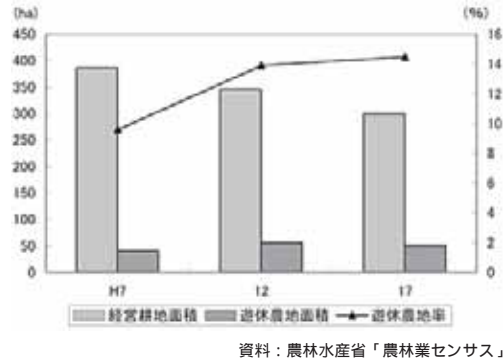
図表 19 農業産出額



資料：近畿農政局奈良農政事務所

1 生駒市の環境の現況

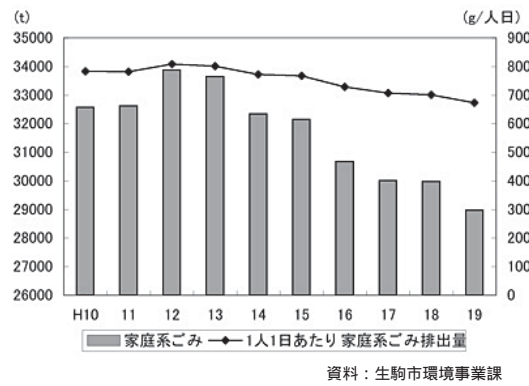
図表 20 経営耕地面積及び遊休農地面積



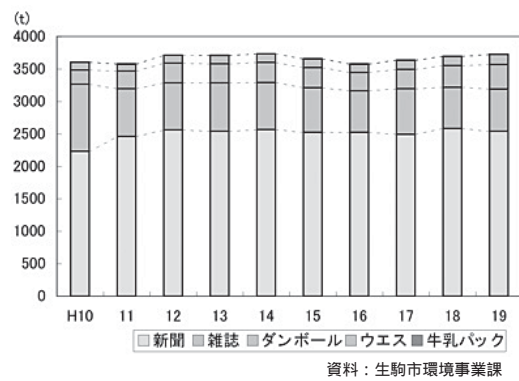
10) ごみ処理量

家庭系ごみは、平成12年度以降減少傾向にあります。資源ごみ回収量については、ほぼ横ばい傾向で、新聞の回収量が最も多く約7割を占めています。

図表 21 家庭系ごみ排出量



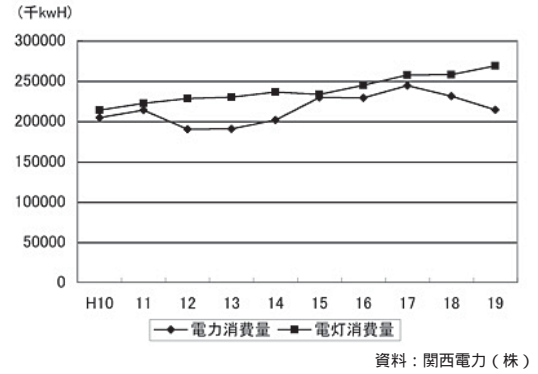
図表 22 集団資源回収量



11) 電力

各家庭での電気消費量が、増加傾向になっています。

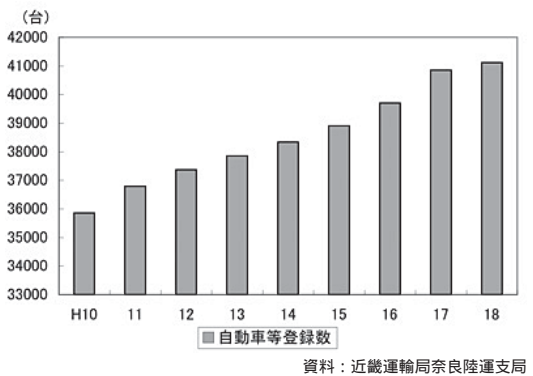
図表 23 電力・電灯の状況



12) 自動車保有台数

自動車保有台数は、一貫して増加傾向です。

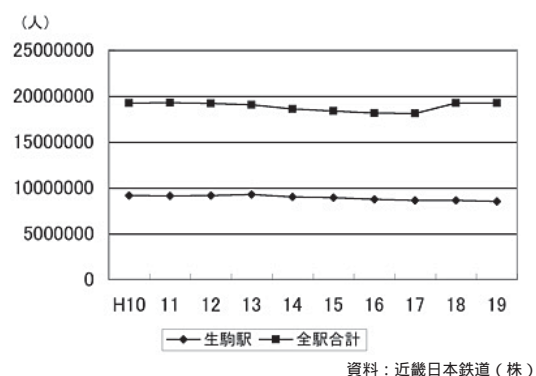
図表 24 自動車等登録数



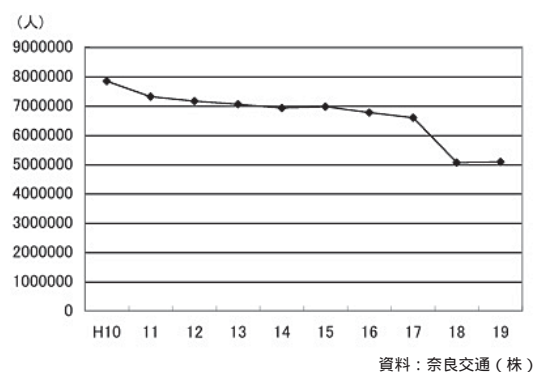
13) 公共交通利用者数

平成 18 年 3 月にけいはんな線が開通したことに伴い、路線バスの利用者が減少し、鉄道の利用者が増加しています。生駒市コミュニティバスは、平成 17 年の運行開始以降、順調に乗車数が増加しています。

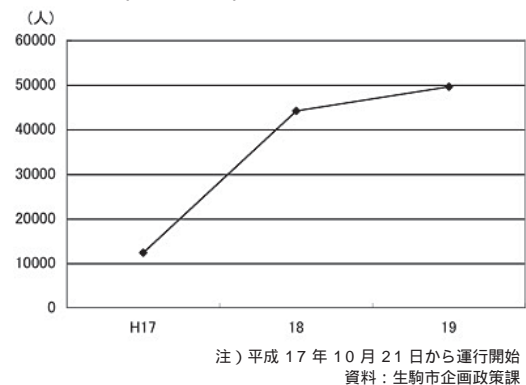
図表 25 鉄道の利用状況（乗車人員）



図表 26 路線バスの利用状況（輸送人員）



図表 27 生駒市コミュニティバス利用状況（輸送人員）



2 策定までの足跡（年表）

開催日時	会議名	内容
3月29日	第1回策定委員会	委嘱式 市民参画による環境基本計画をどのようにしてつくるか 互いに知り合うワーク
4月11日	第2回策定委員会	市民によるまちづくり
4月25日	第3回策定委員会	コミュニケーション演習
5月9日	第4回策定委員会	生駒市の将来を描こう
5月23日	第5回策定委員会	生駒市の計画体系、環境基本計画の位置づけ 地球温暖化の現状と将来予測
6月6日	第6回策定委員会	生駒市のごみ問題を考えよう（分野別現計画の到達評価1）
6月23日	第7回策定委員会 （フィールドワーク）	「生駒市を肌で感じよう」市内環境関連施設の視察 パート1
7月11日	第8回策定委員会	生駒の自然（分野別現計画の到達評価2）
7月25日	第9回策定委員会	生駒の交通（分野別現計画の到達評価3）
8月8日	第10回策定委員会	生駒のエネルギー（分野別現計画の到達評価4）
8月22日	第11回策定委員会	事業者の取り組み
9月15日	第12回策定委員会 （フィールドワーク）	「生駒市を肌で感じよう」市内環境関連施設の視察 パート2
9月26日	第13回策定委員会	生駒のごみ問題を明らかにし、対策事例を知る
10月10日	第14回策定委員会	地域の交通問題を明らかにする
10月24日	第15回策定委員会	地域のエネルギーに関する問題を明らかにする
11月7日	第16回策定委員会	生駒の自然保全について考えよう
11月21日	第17回策定委員会	環境教育
12月5日	第18回策定委員会	委員会を市民に広報するには 計画策定にどんな部会が必要かを考える
12月18日	第10回生駒市環境 審議会	生駒市環境基本計画策定委員会の審議状況について
12月19日	第19回策定委員会	計画策定部会の確定と分野ごとの問題の洗い出し
1月9日	第20回策定委員会	今後の進め方、必要な作業/各部会で生駒の問題の洗い出し
1月23日	第21回策定委員会	各部会で生駒の問題の洗い出し
2月10日	部会フィールドワーク（まち・みち環境 部会）	生駒駅周辺のまちあるき
2月13日	第22回策定委員会	問題の優先順位を整理する
2月27日	第23回策定委員会	企画の立て方 問題を課題に変える
3月12日	第24回策定委員会	課題の確認とプロジェクトの検討
3月16日	部会フィールドワーク（自然環境部会）	全身で受けとめよう！川と田畑の現状について
3月26日	第25回策定委員会	各部会でプロジェクトの検討
4月9日	第26回策定委員会	各部会でプロジェクトの検討
4月23日	第27回策定委員会	各部会でプロジェクトの検討
5月7日	第28回策定委員会	各部会でプロジェクトの検討
5月21日	第29回策定委員会	各部会でプロジェクトの検討
5月24日	部会審議（まち・みち環境部会）	プロジェクトの検討
6月4日	第30回策定委員会	各部会でプロジェクトの検討
6月18日	第31回策定委員会	各部会でプロジェクトの検討
7月9日	第32回策定委員会	各部会でプロジェクトの検討
7月18日	部会審議（エネルギー環境部会）	プロジェクトの検討
7月23日	第33回策定委員会	各部会でプロジェクトの検討

開催日時	会議名	内容
7月30日	部会審議（せいかつ環境部会、エネルギー環境部会）	プロジェクトの検討
8月6日	第34回策定委員会	各部会でプロジェクトの検討、部会ビジョンの検討
8月12日	部会審議（自然環境部会）	プロジェクトの検討、部会ビジョンの検討
8月13日	部会審議（まち・みち環境部会）	プロジェクトの検討、部会ビジョンの検討
8月20日	第35回策定委員会	各部会でプロジェクトの検討、部会ビジョンの検討、中間案発表会準備
8月27日	まち・みち環境部会	プロジェクトの検討、部会ビジョンの検討
8月29日	エネルギー環境部会	プロジェクトの検討、部会ビジョンの検討
9月2日	まち・みち環境部会	プロジェクトの検討、部会ビジョンの検討
9月3日	第36回策定委員会	各部会でプロジェクトの検討、部会ビジョンの検討、中間案発表会準備
9月10日	部会審議（せいかつ環境部会、エネルギー環境部会）	プロジェクトの検討、部会ビジョンの検討、中間案発表会準備
9月11日	部会審議（せいかつ環境部会、エネルギー環境部会）	プロジェクトの検討、部会ビジョンの検討、中間案発表会準備
9月12日	部会審議（自然環境部会）	プロジェクトの検討、中間案発表会準備
9月12日	第11回生駒市環境審議会	生駒市環境基本計画策定委員会の審議状況について
9月16日	部会審議（まち・みち環境部会）	プロジェクトの検討、中間案発表会準備
9月17日	第37回策定委員会	中間案発表会リハーサル
9月19日	中間案発表会リハーサル	会場でのリハーサル
9月20日	中間案発表会	中地区（生駒市コミュニティセンター）
9月27日	中間案発表会	南地区（南コミュニティセンターせせらぎ）
10月5日	中間案発表会	北地区（北コミュニティセンターISTAはばたき）
10月15日	第38回策定委員会	今後のスケジュール 中間案発表会で出された意見の集約
10月29日	第39回策定委員会	今後のスケジュール 部会作業でのプロジェクト精査
11月5日	第40回策定委員会	プロジェクト精査 全体ビジョンの検討、全体で取り組むプロジェクトについて
11月13日	部会審議（エネルギー環境部会）	プロジェクト精査
11月19日	第41回策定委員会	市からの応答票確認、前回からの作業の続き 全体ビジョンの検討、全体で取り組むプロジェクトについて
12月3日	第42回策定委員会	市からの応答票確認、前回からの作業の続き 全体ビジョンの検討、全体目標、計画の構成案、今後の作業確認
12月17日	第43回策定委員会	全体ビジョン、全体目標、冊子の構成案
1月14日	第44回策定委員会	計画書案の内容検討
1月21日	第45回策定委員会	計画書案の内容検討、推進組織のあり方について
2月4日	第46回策定委員会	推進組織について 計画書概要版案の検討
2月18日	第47回策定委員会	推進組織について 計画書概要版案の検討
3月11日	第48回策定委員会	推進組織について 計画書案の確認
3月13日	第12回生駒市環境審議会	生駒市環境基本計画案について
3月25日	第49回策定委員会	推進組織について 総括・ふりかえり

平成
20
年度

3

委員名簿

1. 生駒市環境基本計画策定委員会

平成19年度

氏名	所属部会
環境審議会委員	阿部 操 自然環境部会
公募委員	荒堀 英二
	山名 博美 エネルギー環境部会
	佐々木 誉雄 エネルギー環境部会
	樽井 雅美 せいかつ環境部会
	金 富潤 まち・みち環境部会
	川崎 裕平 自然環境部会
	上松 昌寛 まち・みち環境部会
	森本 善行 まち・みち環境部会
	森本 佳子 せいかつ環境部会
	小宮山 豊 自然環境部会
	速水 直文 エネルギー環境部会
	田中 伸一 せいかつ環境部会
	矢田 千鶴子 まち・みち環境部会
	藤尾 庸子 せいかつ環境部会
	楠下 孝雄 せいかつ環境部会
	岡本 胤継 自然環境部会
	北 嘉信 せいかつ環境部会
	渋谷 昭治 せいかつ環境部会
	國本 明 せいかつ環境部会
	中島 良孝 せいかつ環境部会
上條 正幸 まち・みち環境部会	
高木 祥介 自然環境部会	
行政委員	藤田 雅之 自然環境部会
	伊川 次郎 せいかつ環境部会
	平田 勝久 エネルギー環境部会
	植島 秀史 自然環境部会
	岡田 敏幸 せいかつ環境部会
	谷 英也 まち・みち環境部会
	北田 守一 まち・みち環境部会
辻中 伸弘 エネルギー環境部会	

(敬称略)

平成20年度

氏名	所属部会
環境審議会委員	阿部 操 自然環境部会
公募委員	山名 博美 エネルギー環境部会
	佐々木 誉雄 エネルギー環境部会
	樽井 雅美 せいかつ環境部会
	金 富潤 まち・みち環境部会
	川崎 裕平 自然環境部会
	上松 昌寛 まち・みち環境部会
	森本 善行 まち・みち環境部会
	森本 佳子 せいかつ環境部会
	小宮山 豊 自然環境部会
	速水 直文 エネルギー環境部会
	田中 伸一 せいかつ環境部会
	矢田 千鶴子 まち・みち環境部会
	藤尾 庸子 せいかつ環境部会
	楠下 孝雄 せいかつ環境部会
	岡本 胤継 自然環境部会
	北 嘉信 せいかつ環境部会
	渋谷 昭治 せいかつ環境部会
	國本 明 せいかつ環境部会
	中島 良孝 せいかつ環境部会
	上條 正幸 まち・みち環境部会
	高木 祥介 自然環境部会
	藤田 雅之 自然環境部会
	吉井 啓仁 せいかつ環境部会
	平田 勝久 エネルギー環境部会
	植島 秀史 自然環境部会
	岡田 敏幸 せいかつ環境部会
	谷 英也 まち・みち環境部会
上田 吉博 まち・みち環境部会	
金水 宏高 エネルギー環境部会	
行政委員	

(敬称略)

中間案発表会の準備から携わった皆さま

氏名	所属部会
サポーター	石川 利明 エネルギー環境部会
	鳥居 久倫 エネルギー環境部会
	高峯 幹男 せいかつ環境部会
	有賀 健 自然環境部会
	西浦 彰紘 エネルギー環境部会
	小林 牧子 自然環境部会
	中川 恭一 自然環境部会
	日野 紀代子 自然環境部会

(敬称略)

中間案発表会後から携わった皆さま

氏名	所属部会
ボランティア	安部 純義 自然環境部会
	長島 稔 まち・みち環境部会
	中野 庸二 自然環境部会
	東本 毅 自然環境部会
	矢野 ひろみ 自然環境部会
	奥田 勉 自然環境部会

(敬称略)

2. 生駒市環境審議会

氏名	所属、団体名	選出区分
槇村 久子	京都女子大学教授	学識経験者
中西 達也	弁護士	学識経験者
山田 正弘	市議会	議会議員
八田 隆弘	市議会	議会議員
田村 有香	京都精華大学講師	学識経験者
天野 礼子	アウトドアライター	学識経験者
阿部 操	元市政オピニオン	その他
藤山 輝夫	生駒市老人クラブ連合会	その他
山田 善久	生駒商工会議所	その他
稲森 文吉	生駒商工会議所	その他
上埜 作治	生駒市自治連合会	その他
池本 幸司	生駒市農業委員会	その他

(敬称略)

3. コーディネーター

氏名	所属、団体名
堀 孝弘	NPO 法人 環境市民
下村 委津子	NPO 法人 環境市民
内田 香奈	NPO 法人 環境市民
竹之内 美奈子	NPO 法人 環境市民
立藤 慶子	NPO 法人 環境市民
渡邊 亮平	NPO 法人 環境市民
永橋 為介	NPO 法人 環境市民
丸山 よね子	NPO 法人 環境市民
仲川 元	奈良 NPO センター
山中 英里	奈良 NPO センター

(敬称略)

4 策定の様子



氏名	策定時の部会	メッセージ
阿部 操	自然環境部会	どんな環境なら生き物が住めるかを知り、生物の多様性を考える機会に。参加することに意義を感じています。
山名 博美	エネルギー環境部会	協働によるプロジェクトについて、他市の方々から、「生駒はいいね」とよく言われます。
樽井 雅美	せいかつ環境部会	エコ（ECO）ひいきなライフスタイルを、みんなで創っていきましょう。
金 富潤	まち・みち環境部会	地球環境のためにまず出来ることを始めることが大切です。車の使用を減らしませんか。
上松 昌寛	まち・みち環境部会	これから...!
森本 佳子	せいかつ環境部会	新基本計画はまだ歩き出す前の段階です。皆様の知恵や行動でより良い型に共に育てたい。
小宮山 豊	自然環境部会	策定作業の結果は良かった！ 目標達成のために市民の皆さんの参加・協力をぜひお願いしたい
速水 直文	エネルギー環境部会	これからの10年間、私たちの住む「生駒市」の「こうあったらいいな！」をまとめています。身近な具体的な内容ばかりです。
矢田 千鶴子	まち・みち環境部会	七矢の八矢の2年間。多くの方とご一緒でき、感謝です。PJ実現へ、みなさん、一緒に。
藤尾 庸子	せいかつ環境部会	私は健康づくりの推進活動もしていますが、家庭の中から環境問題に取り組む事を活動の柱にします。
楠下 孝雄	せいかつ環境部会	自然と文化と技術をもとに、世界に誇れる生駒の環境を創り、育てましょう。
北 嘉信	せいかつ環境部会	委員の皆さんと語ることで自らの環境意識も変わりました。環境について皆さんで大いに語りましょう。
國本 明	せいかつ環境部会	みんなの夢と希望を詰め込んだ計画ができました。夢と希望を箱から取り出し実現させましょう！
中島 良孝	せいかつ環境部会	生駒市の事業者として、これからも市民や行政のみなさんと一緒に目標に向かって進んでいきます。
上條 正幸	まち・みち環境部会	生駒大好きです。市内の環境を皆さんと共に考え、環境NO.1自治体実現のため、がんばりましょう！
藤田 雅之	自然環境部会	みなさんの参加を、お待ちしております。私は、教師として、子どもたちにも伝えていこうと思います。
平田 勝久	エネルギー環境部会	小さくても確実な一歩が明日の生駒を守ると思っています。みんなで一緒に頑張りましょう。
金水 宏高	エネルギー環境部会	市民と、環境について有意義に時間を共有できることは、私の貴重な財産となっています。
鳥居 久倫	エネルギー環境部会	一緒にやりましょう！自分達の生駒を『知る楽しさ』、『創る楽しさ』があります。
高峯 幹男	せいかつ環境部会	いこまの美しい自然を子孫に伝えるために、ストップ温暖化・地球の環境保全と一緒に取り組みましょう！
有賀 健	自然環境部会	市民が手をつないで実現のため汗をかきましょう。
西浦 彰紘	エネルギー環境部会	少しでも興味のある人はぜひご一緒しましょう！特に同年代の若者募集（笑）20代より）計画実施には、育児中のママさんにも参加して頂きたいです。子どもたちの為にステキな生駒をつくっていきましょう。
小林 牧子	自然環境部会	良好な地球環境を次世代に残したいなー！
日野 紀代子	自然環境部会	皆で守り作り上げよう 生駒の自然と新しい文化を
安部 純義	自然環境部会	皆で守り作り上げよう 生駒の自然と新しい文化を
長島 稔	まち・みち環境部会	市民の手で市民が望むまちができていくように、市民参加の実現に微力をつくします。
中野 庸二	自然環境部会	10年後の生駒のあるべき姿が示され、安堵致しました。できることから、少しずつ実現に向け取り組みたいと思っています。
東本 毅	自然環境部会	私は環境負荷軽減の努力責任を果たし、できることから実行して参ります。

コーディネーター NPO 法人 環境市民

堀 孝弘	NPO 法人 環境市民	計画の実現を通じて、生駒を、奈良の、日本の環境先進地に！ その主役はあなた！
下村 委津子	NPO 法人 環境市民	未来をつくる時間をともにできる仲間がいる10年後の生駒が楽しみです。
内田 香奈	NPO 法人 環境市民	計画を実現していくプロセスにも、たくさんの楽しい出会いがありますように！
竹之内 美奈子	NPO 法人 環境市民	この輪（和）が大きく大きく広がりますように！
立藤 慶子	NPO 法人 環境市民	みんなの思いが集まれば、必ず環境にやさしいまちになれるはず。応援しています！
渡邊 亮平	NPO 法人 環境市民	委員会の皆さまの熱い思いがこもった計画が実現すること、楽しみにしています！
永橋 為介	NPO 法人 環境市民	大学生に生駒の皆さんの話をしたら目が輝き背筋も伸びてました。人の胸を熱くさせる活動、これからも！
丸山 よね子	NPO 法人 環境市民	みんなのちからで、生駒の美しい自然を守り、暖かい人の輪を広げていってください。これからも応援しています。
仲川 元	奈良 NPO センター	みんなで考え、つくり、行動するこの計画は、生駒の未来づくりに直結しています。応援しています！
山中 英里	奈良 NPO センター	みんなの熱い思いでできた基本計画。未来のこども達に青い地球を残せるよう、計画実現を応援しています。

用語集

【ア行】

アイドリングストップ

自動車の運転に際し、荷物の積み降ろしや駐停車時に自動車のエンジンを切ることにより、大気汚染物質や二酸化炭素の排出を抑制すること。

温室効果

地球をとりまく大気が太陽から受ける熱を保持し、一定の温度を保つ仕組みのこと。二酸化炭素等の気体（温室効果ガス）が温室効果をもたらす。

温室効果ガス

地球温暖化の原因とされ、太陽の日射を受けて暖められた地表面が放つ赤外線を吸収し、その一部を再放射することで気温上昇を起こす原因となる気体。地球温暖化対策の国際的な目標や手法を定めた京都議定書では二酸化炭素（CO₂）、メタン（CH₄）、一酸化二窒素（N₂O）、ハイドロフルオロカーボン（HFC）、パーフルオロカーボン（PFC）、六フッ化硫黄（SF₆）の6物質が削減目標の対象となっている。参照「京都議定書」「地球温暖化」

【カ行】

環境家計簿

省エネやごみの排出量の削減につなげるため、家庭での光熱水の消費量、ごみの排出量などを定期的に記入し、その変化をチェックする家計簿のような記録帳。

環境基準

環境基本法に基づく、環境保全行政上の目標。人の健康を保護し、生活環境を保全する上で維持されることが望ましい基準。大気汚染、水質汚濁、土壌汚染、騒音などに関する環境基準が定められている。

なお、ダイオキシン類に関しては、ダイオキシン類対策特別措置法に基づき、大気汚染、水質汚濁及び土壌汚染の環境基準が定められている。

京都議定書

1997年に京都で開催された「気候変動枠組み条約第3回締約国会議（COP3）」で採択された議定書。地球温暖化防止のための温室効果ガス削減に向けた目標値や手法などについて定めている。日本は、1990年を基準として2008年から12年の間に、温室効果ガス6%削減することを約束している。

コミュニティバス

公共交通が不便な地域において、新たに導入されはじめている公共交通システムの一つ。生駒市内には、コミュニティバスとして「たけまる号」が運行している。運行業務はバス会社が行うケースが多い。運行費用は行政がまかなうケース、地域の病院、商店などの協賛金や住民の寄付によるケースなど様々あり、地域の状況に応じた運営形態が採り入れられている。

【サ行】

里山

市街地や集落に隣接する森林で、林産物の栽培や薪炭の生産などに利用され、古来より特に人々の暮らしと深く関わってきた森林を里山と呼んでいる。地域住民が身近に親しめる一方、その環境の維持には住民による手入れや管理が必要であり、人と自然が共生する場所として注目されている。

持続可能

1987年、国連の「環境と開発に関する世界委員会」報告書の中で提唱された「持続可能な発展（sustainable development）」という概念に基づく言葉。将来世代の必要（ニーズ）を損なわないように現代世代の必要（ニーズ）を満たすことと考えられている。環境と経済と社会の発展を調和させて人々が幸せに暮らしていけるようにし、地球を将来世代に引き継いでいけるような社会にすること。

市民参画

従来、行政が行ってきたことについて、市民が主体的に関わり、行政と協働で取り組むこと。行政が市民の意見を聞いてそれを反映させる「市民参加」とは区別し、立案、計画、意思決定の各段階で、市民が主体性を持って関わる場合に用いる。

市民農園

一般に、都市住民などの農業者以外の方がレクリエーションや自家用野菜の生産などを目的として、小面積の農地を利用して野菜や花を育てるための農園。近年、環境学習の場としても期待されている。

循環型社会

「循環型社会形成基本法」では、「製品等が廃棄物となることが抑制され、並びに製品等が循環資源となった場合においてはこれについて適正に循環的な利用が行われることが促進され、及び循環的な利用が行われない循環資源については適正な処分が確保され、もって天然資源の消費を抑制し、環境への負荷ができる限り低減される社会」と定義付けられている。これに加えてエネルギー、さらに水の循環を視野に入れることが必要とされている。

新エネルギー

石油、石炭に代わる、環境への負荷の少ない、新しい形態のエネルギーで、「新エネルギー導入大綱（平成6年12月16日、総合エネルギー対策推進閣僚会議決定）では、重点導入を図るべき新エネルギーとして、次の3形態があげられている。

新エネルギーの利用を中心とした再生可能エネルギー（太陽光発電、太陽熱利用システムなど）

廃棄物や廃熱の利用を中心としたリサイクル型エネルギー（廃棄物発電など）

従来型エネルギーの新利用形態（熱電供給システム、燃料電池など）

用語集

【タ行】

ダイオキシン類

ダイオキシンは、非常に強力な毒性を持つ物質で、環境ホルモンの一つ。一般に、ポリ塩化ジベンゾ・パラ・ジオキシン（PCDD）、ポリ塩化ジベンゾフラン（PCDF）、コプラナーポリ塩化ビフェニル（コプラナー PCB）をまとめてダイオキシン類と呼んでいる。日本では、ごみの焼却炉からの排出が8～9割を占めると言われている。

地球温暖化

人間による化石燃料の大量消費により、大気中の二酸化炭素など温室効果ガスの濃度が増加し、地球の平均気温（現在約14℃）が高くなる現象。気温が上昇するだけでなく降雨量も大きく変化し、気候の変化も激しくなることから、正式には「気候変動（climate change）」と呼ぶ。生態系に壊滅的な打撃を与える恐れがあるとともに、異常気象による災害、干ばつや多雨などによる食料生産の悪化、利用できる淡水の減少、海水面の上昇、マラリアなど感染症の流行地域の拡大など、人間の生存と生活にも非常に大きな悪影響を及ぼすと予測されている。 参照「温室効果ガス」

地産地消

「地元生産 - 地元消費」を略した言葉で、地元で生産されたものを地元で消費するという意味で使われる。これによって、地域での循環型社会の構築を促し、また、地域の農林水産業の活性化と食物の安全性の確保もめざしている。

デポジット制度

正式には「デポジット・リファンド制度」で、預かり金払い戻し制度のこと。ビール瓶のように販売価格に容器の預かり金が増加されており、空き容器を返却すると預かり金が払い戻しされる。容器の再利用を促進し、ごみの量の削減につながる方法である。

デマンドバス

デマンドバスは、デマンド方式ともいい、乗客の需要に応じて運行する基本路線の外に迂回路線を設定し、運行するバスである。

【ナ行】

二酸化硫黄（SO₂）

主に石油等の化石燃料に含まれる硫黄（S）が燃焼することにより大気中に排出される気体で、呼吸器に対して悪影響を及ぼす。硫黄酸化物（SO_x）の一種で、発生源は自動車や工場・事業場など。

二酸化窒素（NO₂）

主として物が燃焼することにより発生し、呼吸器に対して悪影響を与える。窒素酸化物（NO_x）の一種で、発生源は自動車や工場・事業場など。

【ハ行】

バイオマス

動植物を由来とする資源。木材や農作物、畜産物を収穫したり加工したりする際に出る間伐材やおがくず、糞尿、菜種油、残りかす、建築廃材などの生物系廃棄物を原料としてエネルギーを生み出すことができる。

化石燃料に由来しないため、大気中の二酸化炭素を増大させないことになり、地球温暖化防止策の一つになること、同時に農林業の活性化や廃棄物問題の解決策となり得ることなどの特徴を持っている。

パートナーシップ

違う立場に立つ人々が、対等な関係のもとに、それぞれの特性に応じた力を出し合って相乗的な効果をあげること。環境問題の解決やまちづくりには、市民・市民団体・事業者・行政のパートナーシップが不可欠だと言われている。

ビジョン

めざすべき将来像。

フィールドワーク

椅子に座って講義を聴く「座学」ではなく、現場に出かけて行ってその状況を調べたり、現場の人の話を聞くなどして、その実態を体感して学ぶ調査研究の手法。

フリーマーケット

ごみの減量化や資源の有効利用に役立てることを目的に、公園、駐車場等を会場に住民が不要な品物を持ち寄り、安い値段で販売すること。フリーマーケットの元の意味は「蚤の市」。アメリカではガレージセールと言われる。

プロジェクト

「課題」を解決するための具体策。この計画では、市民、市民団体、事業者の取組や活動、行政の施策や事業、さらにこれらのパートナーシップで行う取組を指す。

【ラ行】

ライフスタイル

生活様式。現在は資源とエネルギーを浪費するライフスタイルであるとされている。環境問題の解決や持続可能な社会づくりのためには、経済システムとともにライフスタイルの根本的な変革が必要だとの認識が国際的になされている。

リユース

同じ物を再び使用すること。ごみ減量の手法に関しては、一般に環境への影響の少ない順に「リデュース（排出抑制）」、「リユース（再使用）」、「リサイクル（再資源化）」という「3R」が用いられる。リユースはリサイクルよりも環境への影響が少ないと考えられている。

6 用語集

【ワ行】

ワークショップ

もともとの意味は、手作業で協力しあってものを生産する工房。意味が転じて、多様な経験や価値観を持つ個々人が、知識や経験の有無に関係なく、対等な人間関係のもとに、創造的な雰囲気の中でより生産的な合意形成を図る方式を言う。

【B】

BDF (Bio Diesel Fuel : バイオディーゼル燃料)

生物由来油(使用済みてんぷら油など)を精製してつくるディーゼル燃料。軽油を用いる通常のディーゼル・エンジンに、改造なしで流用可能。排気ガス中にSOxが発生せず、二酸化炭素や黒煙も軽油より少ないことに加え、植物起源の原料(=バイオマス)であることから、カーボンニュートラルとみなすことができ、地球温暖化対策としても注目を集める。

BOD (Biochemical Oxygen Demand : 生物化学的酸素要求量)

水質汚濁の汚染指標の1つで、水中の微生物が一定時間内(20で5日間)に有機物を酸化・分解するために消費する酸素の量を示す数値。この数値が高ければ高いほど水中の有機物の量が多いことを示す。河川の汚濁を測る代表的な指標。

なお、BODは生物によって代謝されやすい有機物を表現しているもので、代謝されにくい物質は測定値の中に入っていない。また、排水中に生物に対して有毒な物質が含まれていると、生物の活性を低下させるため、実際よりも低い値となる。

【N】

NPO (Non-profit Organization : 非営利組織)

営利を目的とする株式会社などと異なり、社会的使命の追求を目的とし、自発的に継続して活動を行う組織。一般的には、法による特定非営利活動法人格を取得した団体に限定せず、より広く、社会的使命の達成を目的とする任意団体も含む。